

USSアリゾナ記念館

USS戦艦アリゾナは、1941年12月7日に命を失った1,177名の船員たちが最期をとげた場所であり、永遠の休息地でもあります。約56メートルある記念館は水沈した戦艦をまたく形で作られ、玄関と会合室、セシモニーと一般見学用に設計された中央部、戦艦アリゾナ上で戦死した人々の名が大理石の壁に刻まれた聖霊の3つのセクションから成り立っています。

USSアリゾナ記念館は、真珠湾攻撃で戦死した人々に敬意を表して建てられました。1943年に記念館設立が提案されましたが1949年までは何も実現されませんでした。そしてその年、当時のハワイ連州が本格的な第一歩として太平洋戦争記念委員会を設立しました。

太平洋地区司令長官（CINCPAC）であったアーサー・レッドフォード海軍中将は、1950年に水沈した戦艦上に旗柱を立てることを目指し、最初の承認となりました。

第二次世界大戦中ヨーロッパでの連合国勝利の達成を後援したドット・D・アイゼンハワー大統領は、1958年に記念館の建設を承認しました。そして議会によって承認された公金と一般募金により行われた建設工事が1961年に完了し、翌年1962年にこの記念館が開館しました。

記念館の設計をした建築家アルフレッド・ブライスは次のように言っています。*中央部が低くなくなり両端が力強く頑丈なイメージのこの設計は、最初の敗北と最終勝利を表現しています。統合的印

1941年(昭和16年)12月7日の攻撃による損失表

	アメリカ	日本
死者	2,380	64
海軍	1,998	64
海兵隊	109	
海軍	233	
民間人	48	
自衛隊	1,178	
海軍	710	不明
海兵隊	69	
海軍	364	
民間人	35	
死者		
北支または南支*	12	5
民間人	9	
死者		
大連	164	29
中支または小連	159	74

* 船舶は両国船による被害は異なる場合があります。* アリゾナ、ユタ、オクラホマの3州は戦艦アリゾナの被害を受けて被害を受け、その被害に同意しました。

象はひとつの平和です。この建物はただ悲しみの象徴ではなく、これを見た人々にそれぞれの反省や悲憤を感じてもらいたいです。

USS戦艦アリゾナは現在でも就役中であると信じている人々が多いようですが、実際には就役解除になっています。しかし戦艦とその戦死者を悼んで、沈没した戦艦のメイン・マストに取付けられた旗柱には、毎日アメリカ国旗が掲揚されています。そしてUSSアリゾナ記念館は、真珠湾攻撃で戦死したすべての軍人たちの記念となっているのです。

見学者センター

見学者センターとUSSアリゾナ記念館は真珠湾海軍基地内に所在し、アメリカ海軍と国立公園課が共同で運営しています。見学者センターは、記念館訪問者が必ず足を止めなければならない場所になっています。場所はワイキキからステート・ハイウェイ99（カメハメハ・ハイウェイ）で西へ約45分行った所、真珠湾を一望に見渡せる高台にあります。見学者センターは合衆国議会からの割当て資金と、艦隊予備役協会第46支部の募金活動によって集められた民衆からの寄付により、1980年に完成しました。約150台分の無料駐車場も用意されています。

見学者センターで無料のチケットを受け取った後、真珠湾攻撃についての20分間のドキュメンタリー映画上映と国立公園課職員による簡単な話があります。映画上映後職員が、記念館までの海軍シャトル・ボートの乗船場へご案内いたします。記念館で下船し、帰るもまだシャトル・ボートをご利用ください。

見学者センター内には博物館や、アリゾナ記念博物館協会が運営している本屋もあります。その他にスナック売店、中庭、手洗所、事務所があります。インフォメーション・デスクの真後ろの壁にかかっている戦艦アリゾナの油絵（約4.8m×15.2m）はジョン・チャールズ・ローチ製作のもので、また、見学者センター後方の庭園からはフォード島や翔舟通りの美しい景色が見渡せます。

記念館への交通

車の便のない方々にはいくつかのバスの便が用意されています。ホノルル市営のバスの場合は、ワイキキから乗車して見学者センター前で下車していただけます。特に20番のバスでは、センター前までほぼ直行で行かれます。また、ワイキキにある民間交通会社も見学者センターまでの往復バスを運行し、民間観光バス会社各社も観光ルートの中にアリゾナ記念館見学を入れています。詳細については422-0561にお電話ください。

一般的なご案内

- 見学者センターは、毎日午前7時30分から午後5時までオープンしてあります。最後のプログラムは午後3時に始まり、奥、サンクスギビング・デー、クリスマス・デー、元日は休業となります。
- 予約は一切受け付けておりません。すべてのツアーは無料で、先着順になっています。
- 見学者センター内の2つの劇場内、ポート上、記念館での設営や飲食は禁じられています。
- カメラ、ハンドバッグ等の貴重品は、お手元から離さないようにしてください。
- 詳細については、(808)422-0561、または(808)422-2771へお電話ください。もしくは以下の場所へ書面でごらぞ： Superintendent, USS Arizona Memorial, 1 Arizona Memorial Place, Honolulu, HI 96818-3145

不名誉の日

1941年12月7日

真珠湾攻撃は、中国と東南アジア地域征服をめぐって悪化していた日米関係を最悪の物としました。1931年、日本陸軍の過激派が政府の方策を無視して、満洲の中国北部地域のほとんどを侵略した時に自体は悪化し始めました。そして、1937年日本はアメリカの抗議を無視して、中国の残りの地域に従攻撃をかけたのです。その行動に驚きはしたものの、アメリカやその他の極東諸国は、日本軍の侵略防止のために軍力を使う事は望みませんでした。

その後の3年後、ヨーロッパでも戦争が始まり、日本は日独伊枢軸同盟でナチ・ドイツと手を組みました。アメリカは日中戦争を解決させるために日本に外交的及び経済的圧力をかけました。日本政府はそうした処置一特に日本への油の輸出禁止一を考案し、両国は国家威信の失墜なしで手を引くことは出来ない立場に立たされました。日本政府は両国間の相違について交渉をし続けましたが、日本側はすでに戦争を決意していました。

真珠湾攻撃は、西太平洋における征服の主要戦略の一部でした。目的は、アメリカに日本のその戦略計画を妨害させないために太平洋艦隊を戦力不能にすることであり、真珠湾攻撃の総指揮者は、日本連合艦隊司令長官の山本五十六大将でした。山本大将は日米開戦のものには反対の立場をとっていましたが、開戦が不可避の場合、日本を勝利に導き結う一つの手段は、速やかに決定的な勝利を得ることであると提唱していました。戦争が長引けば、日本よりもはるかに優勢な経済力と工業力を保持するアメリカに、日本は決して太刀打ちできないことを知っていたのです。

11月26日、6隻の空母を含む33隻の戦艦と補助船で編成された日本軍の攻撃隊が、日本の北方からハワイ諸島に向けて出航しました。通常航路より北に迂回ルートを取り、1941年12月7日早朝までにはその停泊地点、オアフ島北方370キロの海域に到着しました。

午前6時、戦闘機、爆撃機、雷撃機から成る第1波攻撃隊が母艦から飛び立ちました。その前夜、それぞれ2名の船員と2つの水雷を乗せた5隻の特殊潜航艇が、真珠湾入口から数十キロ離れた“母”潜水艇から発艦され、アメリカ艦隊にできるだけの損傷を与えるべく、航空攻撃が始まる前にひそかに真珠湾内に進入を試みていました。

一方真珠湾内では、130隻のアメリカ太平洋艦隊が平時に碇泊していました。9隻ある艦隊戦艦のうち7隻はフォード島の東南側に“戦艦列”となって緊密に並べられていましたし、海軍の飛行機はフォード島カネオへ湾海軍航空発着地そしてエバ海兵隊航空操縦発着地に整然と並べられていました。そしてアメリカ陸軍航空隊の飛行機は破壊活動防止のため、ヒッカム、ホイラー、ペローズの核飛行場にまとめて置かれてありました。

午前6時40分、駆逐艦ワードの乗組員は、真珠湾の入口に向けて行動中の小さな潜水艦の展望塔を発見しました。ワードはただちにこれに向けて爆雷を発射、砲撃も加えて敵艦を沈め、この事を基地司令部に無線で報告しました。7時前、オパナ岬のレーダー基地では、北方から接近中の航空機の大編隊をその映像に捕らえました。しかし、その編隊は空母炎タープライズを発艦し哨戒中の見方機か、あるいは米本土から飛来が予定されていたB-17の編隊のいずれかとみなされたため、何の処置もとられませんでした。

不名誉の日

日本の第一波攻撃隊は、午前7時55分になろうとする頃には攻撃目的地点に到着しました。そして第一波攻撃隊長、瀧田美津雄海軍中佐は母艦隊に向け、「奇襲成功せり」を意味する暗号電報、「To, To, To」と「トラ、トラ、トラ」を打電しました。

8時10分頃、USS 戦艦アリゾナが大爆発。一発の1,760ポンドの徹用爆弾がその甲板に命中し、前方弾薬庫に点火したのです。爆発後9分足らずでアリゾナは1,177名の乗組員を巻添えに海底に沈没し完全喪失となりました。そして数発の魚雷が命中したオクラホマも、400名以上の乗組員を艦内に閉じ込めたまま転覆。戦艦カリフォルニアとウェスト・バージニアは、それぞれの係留地点で沈没。

一方、標的艦に転用されていたかつての戦艦ユタは、50名以上の乗組員を閉じ込めたまま転覆。メリーランド、ペンシルベニア、テネシーの名戦艦も大損害を蒙りました。戦艦ネバダは攻撃中に湾外への脱出を試みた唯一の戦艦でしたが、数発の爆弾が命中、しかしその位置で擱礁して湾の入口を塞いではならないと必死に動き続け遂に湾口外で座礁しました。

真珠湾攻撃が激烈化していた最中、オアフ島のあちこちの軍事施設も攻撃を受けていました。ヒッカム、ホイーラー、ペロースのカク飛行場、エヴァの海兵隊航空基地、カネオヘ湾の海軍航空基地、スコフィールドの兵舎では、何百機もの飛行機が飛び立つこともなくそのまま地上で破壊されたり、何百人という兵士が死傷するなど、程度の差こそあれ、それぞれ大きな被害を受けたのです。

死傷するなど、程度の差こそあれ、それぞれ大きな被害を受けたのです。

約5分後、ようやくアメリカ軍の対空砲火が火をふき始めましたがその菓莢がホノルル市内に雨あられと落下したので、市民は日本軍の空襲による爆弾と間違いました。そして、小休止の後午前8時40分頃、第二波攻撃隊が来襲し、真珠湾内の駆逐艦ショーヤソトヨモ、乾ドック、大きな被害を受けて座礁していた戦艦ネバダへの攻撃を続けました。さらに攻撃隊はアメリカ軍の反撃を少しでも防止するために、ヒッカムとカネオヘへの飛行場を攻撃しました。

陸軍航空隊の機関機もようやく数機が迎撃に飛び立ち、約12機の日本機を打ち落としました。そして午前10時、第二波も北方に飛び去り、攻撃は終了しました。日本軍の損害は飛行機が合計29機、特殊潜水艇5隻(うち1隻はペロース飛行場付近の海岸に座礁して拿捕された)でした。

攻撃は確かに目を見張る結果を産みましたが、完全な成功とはいえませんでした。アメリカ太平洋艦隊は粉碎されたとはいえ、攻撃時に湾内にいなかった母艦は無傷。その上真珠湾そのものも信じ難い程無事だったのです。海兵工廠、燃料貯蓄地域、潜水艦基地などの被害は微々たるものでした。もっと重大なことは、それまで第二次世界大戦に参加するか否かで真二つに分かれていたアメリカの世論が、真珠湾攻撃により完全に日本及びその枢軸国打倒の目標に向かって一本化したことです。